

## 第3回 阿賀川自然再生モニタリング検討会 議事要旨

開催日時：平成29年1月30日（月）13:30～15:50

場 所：阿賀川河川事務所 1階会議室

### 【議事次第】

1. 開会
2. 所長あいさつ
3. 議事（1）
  - ・第2回検討会のご意見と対応について
4. 議事（2）
  - ・阿賀川自然再生モニタリング結果について
  - ・坂下委員の現地調査結果について
5. 議事（3）
  - ・阿賀川自然再生計画（案）について
6. 閉会

### 【議事】

- (1) 第2回検討会のご意見と対応について
  - ・第2回検討会における意見と対応について事務局より説明。
  
- (2) 阿賀川自然再生モニタリング結果及び坂下委員現地調査結果について
  - ・平成27年9月出水により、JR只見線より下流の土砂堆積傾向がうかがえるが、埋没したカワラハハコが再生可能な堆積厚はどのくらいか。今後のモニタリングに向け非常に良いデータとなる。
  - ・水際のヤナギ類の実生が、出水により流出したと報告しているが、具体的に出水中のどのような力が働いて流出したと考えているのか。
  - ・再生可能な堆積厚は50cm程度まで確認している。
  - ・ヤナギ類の実生の流出について、年平均最大流量程度の出水であったことから、表層の河床材料が動き、流出したのではないかと思われる。
  
  - ・ヤナギのモニタリングについて、阿賀川の実態をきちんと把握するためには単年度ではなく、複数年度にわたって実施すべきと思う。
  - ・モニタリングは来年度以降も実施していきます。

- ・ 秋季調査で捕獲されたウケクチウグイは、体長 5 cm程度で今年生まれの個体と思われる。依然として本種の生態に関する情報が乏しく、情報が増えるように調査を実施してほしい。生態が似ているナマズやニジマスがいるような箇所を調査すると確認できるのではないかと思う。
- ・ 数年前までは阿賀川にはいなかったフクドジョウが確認されている。ドジョウ、シマドジョウは在来種であるが、フクドジョウが今後どこまで増えていくのか注目していきたい。
- ・ 一般に産卵箇所として、コチドリは砂地の多いところを、イカルチドリは少し粗めの小石があるところで、卵もとがっているところが中心に向くように産卵する。卵は大体 4 個くらい産む。モニタリングの卵の写真ではそれぞれ概ねそのような傾向となっている。
- ・ 河床の変動量について、中島・大石から上米塚地区がかなり掘られている感じがする。洗掘が進まないか今後の変動について注視していきたい。
- ・ カワラバッタのラインセンサスについて、今年度は各地区3ラインに調査範囲を縮小しているが、平成27年出水後も生息が確認されており、良好な生息環境が維持されていると思う。
- ・ ワンド内のイトヨ以外の魚についてサンプリングはしていないか。
- ・ 後ほど確認します。
- ・ 河川敷内でマムシを確認しているが、マムシはほ乳類食性であり、小動物が豊かでないと生息できない。生息している可能性が高いとなると、河川敷内にえさがどの程度あるのか、ネズミ類の個体数を推定してみるということができれば面白いと思う。他にキツネやイタチも確認されているが、餌がなければ寄りつかないと思うので、確認されたヒミズやノウサギ以外の小ほ乳類についても調査ができるとよい。
- ・ 礫河原になると小ほ乳類にとっては生息しにくい環境になると思う。礫河原の植物に依存しているのかどうか、生活の過程で来ているのか、外から来ているのか、調査の回数、調査人数、調査時期など基本的な情報も継続して蓄積しておいてもらいたい。
- ・ 真宮地区のワンドを経年的に調査しているが、冬季でも水温が10℃以上の湧水・伏流水の水環境が保たれており、イトヨを始め多くの魚種が確認された。また周辺は温かく、植物も青々と茂り、ヤナギはいち早く芽吹いているのを確認した。

このような水環境が阿賀川の各地にあり、生物多様性を支えているので、このようなワンドは是非保全して頂きたい。

- 当初の自然再生計画の目標値である礫河原面積は達成したということであるが、今後の課題はどういうところにあるのか。
- 今回の資料で侵食と堆積のグラフをまとめているが、生物のモニタリングを実施していく上では、洪水中にどのくらい深さまで土砂が移動しているかを把握することが重要と思う。
- 当初の目的である礫河原面積の拡大については目標を達成した。成果が出ている背景には、事業後に連続して発生した洪水の影響もあると考えられる。過去には大きな出水がない年もあり、モニタリングの継続が重要であると認識している。特にヤナギ調査については、樹木管理の上でも重要と考えており、樹木の再繁茂の恐れのある場合は、必要に応じて人工的に維持を行うことも検討していきたい。
- 洪水時の洗掘深調査については、来年度検討したいと思う。

### (3) 阿賀川自然再生計画(案)について

- ここまでの委員の意見を追記し、再修正したものを後日委員に配布し承認を得る形としたいと思う。

以上